

○総務建設常任委員長（小川務君）

おはようございます。

令和 6 年 8 月 27 日に閉会中の総務建設常任委員会を開催しましたので、その内容をご報告いたします。

まず、総務課から 3 点説明がありました。

1 点目、旧土庄高校跡地整備事業について、今年度で旧土庄高校跡地の造成、とのたる館の整備、土庄第二体育館トイレ整備が完了し、各施設の管理・運用が複数課で行われていくので、情報共有および利用者の利便性が図られるよう関係課との連携を進めたいと考えている。

また、周辺自治会より緊急避難所として「とのたる館」を開放してほしいとの要望があり、検討したいと考えているとの説明がありました。

委員から「利活用検討地に何らかの使用目的のめどが立っているのか」との質問に、現在のところは使用する計画などはないとの回答がありました。

2 点目、行政情報システム管理事業についてです。

1 つ目に、自治体情報システムの標準化・共通化について、町としては、令和 7 年 11 月頃に標準化・共通化へシステム移行、データ移行を行う予定としており、それにともなう補正予算を 9 月議会に提案する予定との説明がありました。

2 つ目に、DX の推進について、業務の効率化および町民サービスの向上に向け、現状の問題点を洗い出し、DX を推進するための方法を検討するプロジェクトチームを庁内に昨年 9 月立ち上げ、課題解決に向け協議をおこなっている。

3 つ目に、令和 6 年度デジタル実装計画策定支援事業について、デジタル田園都市国家構想の実現のため、デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、住民サービスの向上や地域課題の解決を目指すため、伴走支援を行う業者や DX 推進プロジェクトチームと連携しながら協議を行っている。

3 点目、ハザードマップ作成の進捗状況について、基本的な仕様として、対象災害を土砂災害、洪水、高潮、津波とし、サイズは A1 両面で、地図面と防災啓発面を記載することとしている。

地図面の裏面に、ハザードマップの使い方、土砂災害や地震など災害ごとの特徴・特性、家族で避難について話し合ったりできるよう書き込みができるマイ・タイムラインや備蓄品のチェックリストといったページを掲載する予定である。

今後、この内容を可能な限り地域の意見も踏まえて作成したいと考えているので、地元説明会などを実施していきたいと考えているとの説明がありました。

委員から、配布時期はいつ頃ぐらいを考えているのかとの質問があり、作成期間が 2 月末で 4 月の広報もしくは 3 月の広報ぐらいが配布できる時期だと思っているとの回答がありました。

次に、企画財政課から 3 点説明がありました。

1 点目、自動運転バスの実装実験について、小豆島における将来的な人的作業負担の削減に向けた取り組みとして、自動運転バスの実装運行を行うものである。

運行ルートは、土庄港からエンジェルロードまで、走行距離は片道約 2.7km、走行時間は片道約 10 分で、走行期間は、9 月 11 日～17 日まで、便数は、1 日 7 往復を想定している。国の地域公共交通確保維持改善事業の補助を活用し、補助率が 10 分の 10、交付決定金額は 3500 万円となっている。

2 点目、11 月に開催される全国醤油サミットについて、正式名称を第 10 回全国醤油サミット in 小豆島～世界へ広げよう日本の醤油文化～とし、開催期間は、令和 6 年 11 月 2 日～3 日の 2 日間、内容としては、11 月 2 日が全国醤油産地市町村協議会の総会、式典・シンポジウム、レセプションは、オリビアン小豆島夕陽ヶ丘ホテルで開催する予定。11 月 3 日は、展示会やミニ講演、醤油樽の制作実演などを予定しているとの説明がありました。

3 点目、バスロケーションシステムの導入について、観光庁の事業で、オリーブバス、小豆島町営バス、豊島シャトルバスにバスロケーションシステムを導入するものである。

バスロケーションシステムを導入することで、バスの混雑の減少や臨時便の増車の減少という効果を期待している。

事業費は 2500 万円、補助率が 3 分の 2 となっており、バスの台数で小豆島町と案分している。また、導入する実施主体は、小豆島地域公共交通協議会としており、9 月議会に補正予算を提案する予定と説明がありました。

委員から、ランニングコストや通信費、機械の更新などをしっかりと検証しながら進めていただきたいとの意見がありました。

そのほか、四海地区で実施している乗合タクシーについての報告がありました。

次に、建設課から 2 点説明がありました。

1 点目、沖之島離島架橋事業について、現在施工中の第 10 工区と第 11 工区の進捗状況についての説明があり、当事業の完成は令和 7 年度を目標としていたが、当該工事箇所の施工エリアは大変狭く、工事進捗が当初予定より進まなかったこと、また現場での施工方法の検討調整や海苔養殖漁期の海上工事の制限等もあり、令和 7 年度の事業完成は工程的に大変厳しく、完成は令和 8 年度になる予定との説明がありました。

委員から、現在の進捗率はどの程度になるのかとの質問に、6 割程度との回答がありました。

2 点目、湊崎都市下水路事業について、大谷ポンプ場幹線整備工事（第 2 工区）では、工事期間の短縮を図るため、現場養生による車両通行の安全を確保し

たうえで、終日、片側交互通行での施工方法に変更した。これにより施工効率が向上し、資材費および仮復旧費の削減が図られた。今年度の工事発注については、現在、入札手続き中との説明がありました。

委員から、工法の変更によってどれぐらいの工期短縮とコストダウンがあったのかの質問に、当初、1 カ月程度を想定していた工期が約 1 週間短縮し、費用については、主に仮復旧費の削減により 600 万円程度削減することができたとの回答がありました。

次に、農林水産課から、唐櫃漁港海岸整備事業は、実施設計業務が 7 月末に完了し、今年度のスケジュールとしては、繰越予算分の工事を発注し、1 月末を目標に完了させ、続いて、今年度予算分の工事を発注したいと考えている。秋以降は、海苔養殖の作業時期を迎えることから、漁業従事者と調整を図りながら事業の進捗に努めたいとの説明がありました。

2 点目、多様な農業人材経営計画認定制度について、香川県では、これまで農業における核となる担い手として、認定農業者、認定新規就農者、集落営農の育成・支援により農業の振興を図ってきたが、農業従事者の高齢化、減少により遊休農地の増加が進んでおり、核となる担い手だけでは地域農業を維持していくことが困難な状況になっている。これまでの核となる担い手に加え、経営発展に意欲的な農業者を幅広く担い手として、現在、町が策定中の「地域計画」に、「農業を担う者」として位置づけられた農業者が創意工夫により経営発展を目指す経営計画を認定し、認定を受けた「認定農業人材」に支援を行うために、今年度、創設された新たな制度であるとの説明がありました。

次に、商工観光課から、1 点目、エンジェルロード公園駐車場の一部有料化について、本事業については、小豆島町と土庄町の両町で採択を受けたもので、有料化するの、エンジェルロード公園の第一駐車場で、普通車 28 台、うち思いやり駐車場は 2 台、それから大型バス 4 台を整備する予定である。

事業の概算として、約 3800 万円弱を見込んでおり、9 月議会に条例、事業費の補正予算などの議案を提案する予定との説明がありました。

委員から、料金設定、機器の維持管理などの質問がありました。

2 点目、雇用対策についてです。

1 つ目は、超短時間雇用小豆郡モデル（仮）の導入について、小豆郡内の慢性的な人材不足ということで、事業者が求める常用のフルタイム人材が確保しにくいという分析が出ている。何らかの事情により、常用フルタイムができない未活用人材を活用していくための超短時間雇用小豆郡モデルを、今後、東京大学の先端科学技術センターと連携して取り組み、検証していくとの説明がありました。

2 つ目に、特定地域づくり事業協同組合について、この事業協同組合は、事業

者に人材派遣を行い、スポット的な人材不足に対応するためのものとなっており、国の交付金などを活用して、両町で連携して香川県内初めて設立を目指すものである。地域内外の雇用の創出や人材の確保などにより、地域社会の維持、地域経済の活用を図るものになっているとの説明がありました。そのほか、小豆島まつりなど4件の報告がありました。

以上で、総務建設常任委員会の報告を終わります。